

文化の城・小松城と歩んだ360年の歴史

小松天満宮物語



連歌師・能順が 小松にもたらした影響

小松天満宮の初代別当には、連歌の第一人者として名声のあつた能順が京都北野天満宮から招かれ、約50年間にわたり当時の文化の中心であつた京都と加賀小松の文化交流に大きく貢献しました。能順に接した小松の町人からは、俳諧や茶道を嗜むとともに、連歌の道にも秀でた越前屋敷生のような文化人が登場してきました。

また、1689(元禄2)年には松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅の途中で小松を二度訪れましたが、二度目の小松来訪では、能順と芭蕉との出会いが実現したとも伝えられています。

貴重な文化財の 宝庫

小松天満宮の社殿(本殿、石の間、幣殿及び拝殿)と神門は、加賀藩の名工・山上善右衛門嘉廣を棟梁として建てられ、現在、国の重要文化財に指定されています。また、小松天満宮所蔵の工芸品で国の重要文化財に指定されている「琴棋書画沈金文台・花鳥沈金硯箱」は室町時代の作で、1700(元禄13)年に霊元上皇から能順に与えられたものと伝えられています。

- 1 能順画像(小松天満宮所蔵)
- 2 能順の描く社頭風景
- 3 新装したばかりの宝物館



▶平成25年に社殿西方から前方に移築された能舞台

▶なでると願いが叶うと言われている「願かけ撫牛」



南側

北側

▶神門に彫られた2種類の梅鉢紋。よく見ると北側と南側で形が異なっています。

東には霊峰白山を望み、梯川のほとりに位置している小松天満宮。小松の歴史・文化のシンボルであり、学問の神様を祀ることで知られています。今年で創建360年を迎える節目に、小松天満宮の歴史をたどります。

小松城の鬼門を守る神社

今から360年前の1657(明暦3)年、小松に隠居していた加賀前田家三代前田利常公によって、小松天満宮が創建されました。

小松天満宮は、小松城と金沢城を結ぶ1本の直線上に立地し、小松城さらには加賀藩を守るため、小松城の鬼門の方角(北東方向)、なおかつ金沢城の裏鬼門の方角(南東方向)にあると言われています。鬼神が支配

する鬼門とその対をなす裏鬼門の方角は、不吉で忌むべき方角とされており、その鬼門・裏鬼門の守りとして造営されたそうです。

祭神としては、利常公が祖先神として崇敬していた菅原道真公が祀られています。また、1937(昭和12)年には利常公を祀る小松神社が金沢の尾山神社から小松天満宮に遷り、合わせて祀られるようになりました。



▲上空から見た小松天満宮(平成28年11月撮影)

調和のとれた まちづくり

現在小松天満宮では、梯川の治水対策のため、境内を現位置で保存する形で川の流れを分派させる「分水路方式」での工事が行われています。これは、小松天満宮を含めた文化財の保存と、河川・道路・街並みの整備が一体となったこの地域ならではのまちづくりと言えます。

改修計画決定から21年の月日が流れ、工事は完成に向け着々と進められています。360年の歴史にまた新たな歴史が刻まれ、これからも小松天満宮は変わらずこの場所で小松市を守り続けてくれます。

【主な参考文献】

- ・黒岩重人(1987)『小松天満宮の創建について -陰陽五行の視点から-』『小松天満宮だより -小松神社遷座50周年記念号-』小松天満宮社務所
- ・小松市教育センター(2006)『ふるさと小松の人とこころ』
- ・小松天満宮等専門調査会(1986)『加賀小松天満宮と梯川 -小松天満宮等専門調査報告書-』

問い合わせ

文化創造課 ☎24・8130

小松天満宮創建360年を迎えて 小松天満宮宮司 北畠能房

小松城在城の加賀前田家三代前田利常公により当社創建の棟札が掲げられた1657(明暦3)年から、今年は6回目の還暦の歳となります。

これを記念し、平成の河川改修により移築されました能舞台において、能楽奉納と献花式を執り行います。また、新装となった宝物館を公開し、能順の業績を中心に伝来の宝物を展示します。

郷土の歴史や、現代に生きる文化的伝統に親しむ良い機会となることを祈念しています。

＜記念行事＞

能楽奉納…6月3日(土) 13時30分～ 献花式…6月4日(日) 14時30分～
宝物館公開…6月3日(土) 14時～16時、6月6日(火) 9時～16時
※詳細は「小松天満宮ブログ」をご覧ください。